

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和元年 12月 20日

公表: 令和2年1月27日

事業所名: ポカラポット梅森坂

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			
	2	職員の配置数は適切である	3	1	・小グループに分かれての活動を行うことで、最低限の人員配置で支援できるようにしている。	・活動の内容を見直し、職員と利用者が共同して活動を進めていける取り組みを実施するなど、法令基準を満たす最低限の人員配置でも質の高いサービスを提供できるように努力していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4		・ハード面で改善は難しい部分があるが、段差などを見つけると、利用者、職員で互いに声を掛け合い注意をしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	2		・ミーティングにおいて業務内容の再確認を行い、割り振り・進捗状況の報告をするなど、情報共有ができるように改善していく。 ・事業所の状況等も職員が各々理解し改善していくための考えを持ち、情報を伝達する方法を作っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		・長期休暇の活動予定については、利用希望表と一緒に配布することで内容を理解した上で希望を出せるよう工夫している。また、活動を予め伝えておくことで、その日の所在が分かるようにしている。	・前年度の評価結果をもとに、改善を図っている。特に長期休暇時の活動予定については予め書面にて配布している。また、イベント時には前日に確認の連絡を入れるなど、丁寧な対応をしている。 ・各月の祝日の活動内容については年間計画で出せるように努力していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			・HPにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2		・第三者評価調査者である職員によって、第三者評価の視点からフィードバックしてもらっているが、その体制を明確なものとして整えていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	・合同MTにおいて職員が持ち回りで発表をするなどの工夫をし研修の機会を作っている。	・全職員が外部研修へ積極的に参加が出来る体制を整える ・初任者～管理職までの、研修プログラムを作成していきたい
9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4		・特に主訴、今後の進路の欄は丁寧に確認を行うようにしている。また、サービス等利用計画とも照らし合わせて作成している。	・アセスメントシートの更新を面談で行うなど、ニーズや課題の変化について丁寧に把握するように努力していく。	

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		・Vineland-II、LDI-Rを備えており、希望される方に実施している
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	・利用者の希望を活動内容に反映できるよう工夫をしている。	・職員がそれぞれの意見を出し合い、利用者の特性等を考慮しながら活動計画を立てている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	・利用者が活動の中で役割を分担し、活動が固定されないよう工夫をしている。	・利用者の特性を考慮しながら、自主性や主体性、意欲などを引き出せるよう、支援計画に基づいて変化を持たせるようにしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	・長期休暇でしかできない活動などを取り入れることで、課題やねらいを設定している。	・個々の課題は支援計画に基づいて設定している、全体の活課題としては、その都度変化をさせている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	・利用者の特性や意欲などを考慮しながら、適宜組み合わせている。	・利用者の状況に応じ、支援計画に沿った集団活動ができるように工夫をしている。 ・個々の課題が集団活動でも反映できるように更なる工夫が必要である。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	・利用者それぞれの役割にも言及して確認をしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		・各職員が各々記録の確認を行い、それを元に翌日振り返り等を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		・各職員が各々記録の確認を行い、追加や修正を行うなど、同じ視点で支援できるよう工夫していく。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4		・個別のスケジュールシートや日々の記録を参考にしながらモニタリングを行い、支援計画の見直しをしている。 ・個別のスケジュールシートの自己評価の課題についての定期的な変更を適宜行えるようにしていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	1	・「社会性」「コミュニケーション」に焦点を当てた支援を行っている。	・「社会性」「コミュニケーション」に焦点を当てた支援を柱としながら、個々のニーズや課題に応じて組み合わせ支援をしている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所からサービス担当者会議への出席の依頼があれば参加している。 ・必要に応じて担当者会議開催の呼びかけをしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4			<ul style="list-style-type: none"> ・学校との送迎時のやりとりや、ケースの打ち合わせ、時には保護者に同伴して懇談会・会議に出席するなど、今後とも連携に力を入れていきたい
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		3	<ul style="list-style-type: none"> ・該当ケースではないが、酸素吸入児に対しては家庭と密に連携をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当ケースはないが、そのようなケースが発生した場合には連携していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・利用児童が、小学校高学年、中高生であるため、機会がない。ただ、保護者との面談では、成育歴等は必ずチェックしている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では該当ケースがなく、実績もない。ただし、今後は移行していくケースも増えていくと思われ、当事業所の特性として、いかに支援内容、利用者情報を就労(未来)につなげるかが使命だと認識している
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・日本LD学会に所属している職員が研修に参加するなどし、最新の知見を得られるよう努めている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会の人との関わりを持てる機会を多く設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「障がいのない子ども」と活動する機会を積極的に設定はしていないが、施設外活動を多く設けることで一定の関わりが持っているように努力している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・参加したいとは思っているが、日程の調整がつかず参加ができないことも多いため、今後積極的に参加するようにしていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時には必ず情報を共有するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状で満足することなく、送迎時や面談などを通して利用者の発達や課題の共有ができるように保護者との信頼関係を築いていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムとしては実施していない。CSPのトレーナー資格は持っている職員がいるため、CSPの考え方などに基づいた助言は引き続き行っていきたい。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に丁寧に行っている。 	

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面談時に行っている。 ・保護者からの相談があれば、適宜行い、経過も共有している。 ・待つばかりではなく、スタッフ側から働きかけていく必要性も感じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・父母の会が存在しないので、直接的な支援にはならないが、保護者が参加できる企画をするなど、保護者同士が交流できる場(今年度は医師との懇談会1回・ポカラカフェ2回)を設けている。 ・子どもたちが活躍できる場兼保護者同士が交流できるような場の提供が出来るように工夫する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			<ul style="list-style-type: none"> ・契約時の重要事項説明書の説明の際に苦情対応についての説明をしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に活動報告を行うよう努力していく。 ・活動の様子を撮った写真を定期的に渡すなど、より具体的な方法で発信できるようにしていく。 ・引き続き、行事予定表を作成し配布していく。
	35	個人情報に十分注意している	4		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いに関することについては必ず書面にて同意を得ている。 	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対しては、それぞれの特性に合わせた伝え方、また伝わり方を職員間や保護者と共に情報共有し確認している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・GWや夏季にイベントを行い、隣接する店舗の方にも足を運んでもらった。 ・定期的にイベントを行うことで、地域の方々にも足を運んでもらえるように取り組みを考えていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	2		・整備されている災害時の避難計画や連絡体制も含めて、各マニュアルの作成を早急に行う。また家庭用のマニュアルも作成し周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		・月1回実施し、防災センター見学・通報訓練・非常食についての勉強など、様々な角度から訓練を行っている。	・月1回の訓練実施が市で義務付けられているため、避難訓練や通報訓練、非常食の勉強、避難場所や避難経路の確認などを子どもと共に学ぶ活動を取り入れている。 ・正しいスマホ、インターネットの使い方について講習を行った。 ・非常災害だけではなく、不審者対応や防犯についての訓練の必要性を感じている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	2		・社内研修を行う以外にも、外部の研修に参加できるよう体制を整える。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	2		・これまでにケースはなかったが、今後このようなやむを得ないケースが生じた場合は、決まりに基づいた行動をとる。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	・アセスメントで聞き取りを行い、アレルギーのあるものを使用しない、代替品を用意するなどの対応をしている。	・アセスメントでの聞き取りのほか、面談時に変更がないかの確認を行うようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		・事業所内だけではなく、社内全体で共有している。	・これまで件数的に少なかったため、口頭共有など簡単な方法で行っていたが、利用者が増えてきているため、ヒヤリハットの仕組みを整備する必要がある。他事業所を参考にしながら整備していく。